

アルミ輸入は四割低迷ですべて減少

生産鈍化でスクラップの需要は減少

橋本健一郎氏リポート②

■国際概況

六月前半は、米連邦準備理事会(FRB)の七月初旬での金利切下げ示唆したこと、中国商務省が四日、貿易摩擦は「対話によって解決すべきだ」との声明を出し米中協議再開への期待が高まったこと、メキシコからの全輸入品への関税発動を見送ると発表したことなどのプラス材料もあったが、IMFが中国の二〇一九年経済成長予想を六・二%引き下げる等を嫌気しLMEアルミ相場はDOWN、五月十五日時点で一、七〇五ドル(セツル)と月初価格から五六ドルDOWNの前半締めとなった。

後半は六月のNY連銀製造業景気指数はマイナス八・六で大幅なダウン。予想は一・一%プラス、前回は一七・八%プラス、さえない中国経済指標などのマイナス材料もあったが、G20での米中首脳会談を前にして、香港紙が「米中は貿易戦争の一時休戦で合意」と報じたこともあり、米中通商協議に対する期待感が強まりことを好感しLMEアルミ相場はUP、七月二日現在、後半スタート価格から五九ドルUPの一、七七八ドル。

■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート (TTS) 一一〇・三六→一〇八・七二(円)。

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、四月の自動車生産台数は前年比四・七%増の八一万四、三五一台であった。

輸出(五月)は三五万四、九八四台で前年同月比二・九%増。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、六月の自動車販売台数(軽除く)は前年比〇・九%減の二九万〇、二二五台。

◆新設住宅着工件数推移

令和元年五月の住宅着工戸数は七万二、五八一戸で、前年同月比で八・七%減となった。

また、季節調整済年率換算値では九〇・〇万戸(前月比三・三%減)となった。

◆貿易関連指標

輸出 財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前年比八五・四%減の六一t、二次合金が五四・四%減の七四一t、スクラップが一六五・五%増の一万八、二五〇t、アルミ缶

が八・七%減の六、二二〇t。

輸入

輸入は新地金が前年比一五・一%減の一三万八、一七五t、二次合金が一四四%減の一〇万四七三t、スクラップが五七・七%減の四五二t、合金スクラップは三三%減の三、四四六t。

■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比七・二%減の一五万九、四八三t。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比一・九%減の六万三、九四六tであった。

■国内概況まとめ

【自動車】

日本自動車工業会によると四月の自動車生産台数は前年比四七・七%増の八一万四、三五一台であった。

輸出(五月)は三五万四、九八四台で前年同月比二・九%増。

【販売】

日本自動車販売協会連合会によると、六月の自動車販売台数(軽除く)は前年比〇・九%減の二九万〇、二二五台。

このうち、乗用車一・八%減、貨物四・三%増、バス二〇・八%増。

【住宅】

令和元年五月の住宅着工戸数は七万二、五八一戸で、前年同月比で八・七%減となった。また、季節調整済年率換算値では九〇・〇万戸(前月比三・三%減)となった。

住宅着工の動向については、前年同月比で二カ月連続の減少となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家は増、貸家及び分譲住宅は減となった。

引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。(六面へ続く)

◇ KLT M ず相場

五日 一八・三五〇 米ドル  
一九 トン

◇ 東工取(五日前引、限月八月)

金 四、九二三 円  
銀 出来ず 円  
白金 二、九〇五 円  
パラジウム 出来ず 円

(四面より続く)

【アルミ圧延・押出品生産数】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比七・二%減の一五万九、四八三tと一七カ月連続マイナス。

このうち、板類一〇万七、八三三tで六・八%減と一七カ月連続でマイナス、押出類は五万八、七〇〇tで七・八%減と三カ月連続でマイナス。

【アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績】

生産は前年比一・九%減の六万三、九四六tで五カ月連続マイナス。出荷は〇・四%増の六万五、四二二t。

【輸出】

アルミ新地金が前年比八五・四%減の六一t、二次合金が五四・四%減の七四二t、スクラップが二五・五%増の二万八、二五〇t、アルミ缶が八・七%減の六二二〇t。

【輸入】

アルミ新地金が前年比一五・一%減の一三万八、一七五t、二次合金が一四・四%減の一〇万四、七三三t、スクラップが五七・七%減の四五一t、合金スクラップが三三%減の三、四四六t。

【見通し】

・自動車は生産が四・七%増。国内販売台数が前年比〇・九%減。生産は再びプラス。生産はプラスだが販売はマイナス。今後注視。

・アルミ圧延・押出品生産数

板類・押出生産合計は前年比七・二%減と、一七カ月連続マイナス。このうち、板類は一〇万七、八三三tで六・八%減と、一七カ月連続でマイナス、押出類は五万八、七〇〇tで七・八%減と三カ月連続でマイナス。

今後更にマイナスが続くかの動向に注視。

・アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績

生産は前年比一・九%減の六万三、九四六tと、五カ月連続マイナス。

出荷は〇・四%増の六万五、四二二t。

今後マイナスが続くかの動向に注視。

・アルミ輸出は、内需低迷からスクラップのみ増加。

・アルミ輸入は内需低迷から全品種減少。

【スクラップ見況予想】

流通在庫は販売価格の低迷、生産減、発生減から少ないのではないかと。

需要面に関しては足元の生産状況が徐々に悪化しており減少。

G20での米中貿易戦争の一時休戦を受けて相場は上昇したが、メーカーの購入意欲は低くスクラップ販売は当面厳しい。

【LME・為替予想】

今月は米中貿易戦争の動向 米朝会談後の動向に左右される。

米中貿易に関しては予想どおりG20で一旦休戦になったため、一時的には好材料になるのでは？(先行きはまた課税戦争なることは間違いないが)

米朝会談に関しても 金総書記との面談ができたことは維持的にはプラス、好材料となる(核放棄するとは思えずこちらも長期的には変化なし)

これらを踏まえた七月のアルミ価格の予測は一、七〇〇〜一、九〇〇ドル  
スクラップ購買価格に関しては、〇〜五円安程度と予測している。



北陸地区で市況五百円安

東京製鉄は五百〜一千円安

北陸地区製鋼メーカーは、鉄原料の購入価格を引き下げた。値下げの実施は五日からの向きと週明けの八日からの向きがあるが、値下げ幅はいずれも一律・トン五〇〇円。富山・伏木港においても五日から値下げが実施されており、値下げ幅については一律・トン五〇〇円。

一方、電炉最大手・東京製鉄は五日、全工場及び高松鉄鋼センターで鉄原料の購入価格を引き下げた。値下げ幅は九州工場が一律・トン一、〇〇〇円、田原、岡山、宇都宮の各工場と高松鉄鋼センターが一律・トン五〇〇円。

今回の動向を受け、同社の特級価格のレンジについては二万四、〇〇〇〜二万六、〇〇〇円と、上値、下値ともに五〇〇円切り下がった。下値は、二〇一七年五月二日に九州工場と高松鉄鋼センターで付けて以来、約二年二カ月ぶりの低い水準。

なお、東京製鉄の特級価格は、次の通り(ト  
ン当り・円)。

- ▽田原工場(陸・海上) 〓二万六、〇〇〇
- ▽岡山工場(陸・海上) 〓二万五、五〇〇
- ▽九州工場(陸・海上) 〓二万五、〇〇〇
- ▽宇都宮工場(陸上) 〓二万六、〇〇〇
- ▽高松鉄鋼センター(陸上) 〓二万四、〇〇〇